

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語 271人	社会 271人	数学 271人
	理科 271人	英語 271人	

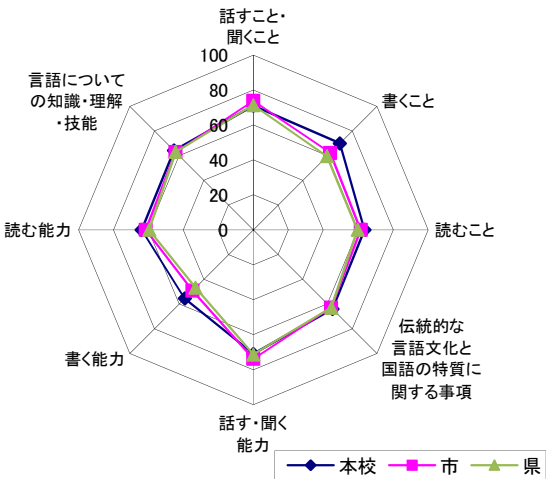
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.0	73.8	71.3
	書くこと	70.0	62.2	59.6
	読むこと	63.6	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.0	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	71.0	73.8	71.3
	書く能力	55.5	49.2	46.8
	読む能力	63.9	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	64.2	62.9	62.9



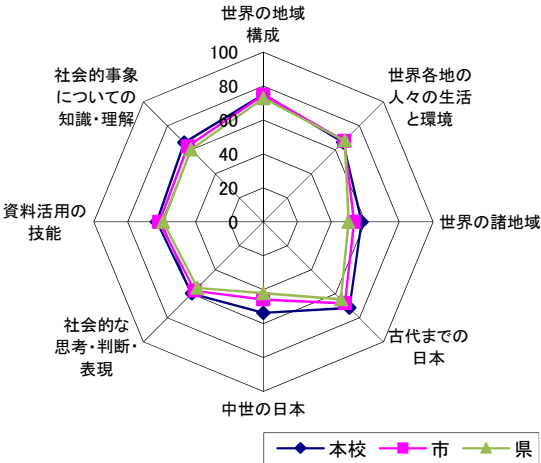
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域別にみると、「話すこと・聞くこと」の正答率が71.3%で最も高い。話し合いの内容を聞き取る問題が出題されたが、話し合いの進め方の工夫についてよく理解できている。 ●市の平均と比べると2.8ポイント低い。問題別の正答率では、「話の構成や話し方の工夫」を問う問題が54.9%と低かった。	普段の授業から、発表をしたり、それを聞いたりする活動によって、「話すこと・聞くこと」の力が養われていると考えられる。しかし、具体的にどんな話し方をすれば、相手により分かりやすく伝えることができるのかについて、よく理解していない生徒も多い。今後の授業では論理的で分かりやすい話し方についての工夫を教え、実際にそういった工夫を取り入れて話し合いをさせる機会を増やしていく。
書くこと	○「書くこと」については正答率が70.0%と、市については7.8%、県については10.4%上回っている。作文の問題では、詩の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことができた。 ●「登場人物の心情描写」に関する問題では、校内正答率が22.0%だった。文学作品において、さまざまな描写から人物の心情を読み取り、的確に書く力が	書くためには正確に読み取ることが必要である。今回の場合、文学作品において、読み取って書くという問題の正答率が低かった。物語・小説などの授業においては、単にあらすじを捉えるだけではなく、人物について深く読み取り、さまざまな描写から心情の変化を読み取る力を身に付けさせる。そして、問いに対してどのように答えるかを理解し、人物の心情について正確に書けるようにする。
読むこと	○領域別に見ると「読むこと」の正答率は63.9%で、市の平均を2.1%、県の平均を4.0%上回っている。「説明文の内容の理解」に関する問題では、どの問い70%を上回っている。 ●読み取った内容を記号で選ぶ問題は高い正答率を示すが、読み取ったことを書いて答える問題では急に正答率が落ちる。	「書くこと」でも述べた通り、文章から必要な情報をしっかりと読み取る力を養うことが重要である。今回の結果からは、文学作品の問題を苦手とする傾向がうかがえる。感情を移入して主観的な読解とならないように、物語に書かれている情景描写を頼りに、客観的な視点で心情を読み取る力を身に付けさせる。そのためには、登場人物がそう考える根拠となる部分を見つけるトレーニングが必要である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均は64.0%で、市の平均を1.1%、県の平均を0.9%上回っている。特に漢字の読みに関する問題では、高い正答率を示した。 ●文法に関する問題では、正答率が18.7%で、県の平均正答率と比べると、2.7%下回っている。また、前年と比べても平均値が低くなってしまった。	文法に対して苦手意識をもっている生徒が多い。単語の分類については1年生の範囲なので、きちんと定着ができないままの生徒も多いと考えられる。文法の授業を進めていく中で、復習できる内容も取り入れ、1年生のときの知識とつなげながら授業を行う。また、品詞の名前や特徴、分類の方法など、覚えるべきところはきちんと覚えさせ、繰り返し問題を解くことで知識の定着を図る。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	75.1	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	66.3	67.5	67.8
	世界の諸地域	57.8	53.4	50.2
	古代までの日本	71.7	68.0	64.6
	中世の日本	53.7	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	59.7	57.3	55.0
	資料活用 の技能	62.8	61.4	59.1
	社会的 事象についての知識・理解	66.0	62.9	60.3



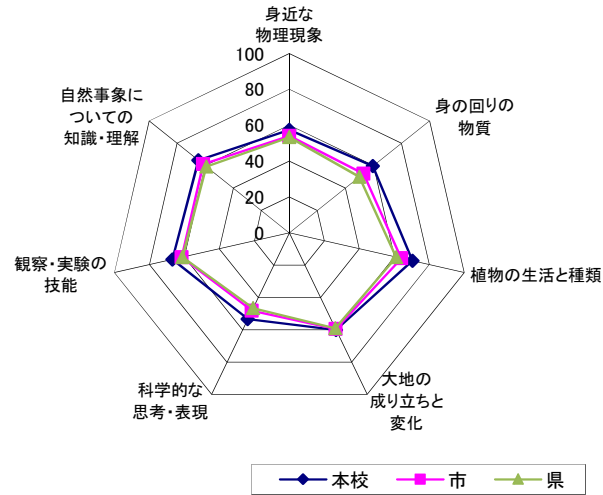
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○領域全体で市の正答率と比べ0.3ポイント、県の正答率と比べ2.3ポイント上回った。特に「赤道について理解している」は4.8ポイント、「様々な世界地図を活用することができる」は2.1ポイント、それぞれ県の正答率を上回った。 ●「世界の海洋の分布を理解している」は1.5ポイント県の正答率を下回った。	世界の地域構成では、地球儀や世界地図を繰り返し活用しながら、緯度と経度、大陸と海洋の分布、おもな国々の名称と位置、地域区分などの学習を通して「世界のすがた」を大観させる内容である。世界の様々な地域を学ぶうえで地図帳や地球儀などを多く活用する授業を展開して、地理の基礎的技能を身に付けさせていく。
世界各地の人々の生活と環境	○「世界各地の雨温図を読み取ることができる」は4.1ポイント、「世界各地の人々の生活について判断することができる」は1.8ポイント、それぞれ県の正答率を上回った。 ●領域全体で市の正答率と比べ1.2ポイント、県の正答率と比べ1.5ポイント下回った。「世界各地の人々の住居について理解している」は前年度の校内正答率と比べ7.6ポイント上回った。特に「偏西風がヨーロッパ州の気候にもたらす影響について理解している」は20.8ポイント県の正答率を上回った。 ●「ヨーロッパ州の国々の名称と位置を理解している」は1.1ポイント県の正答率を下回った。	世界各地の人々の生活と環境では、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然条件、社会条件と関連付けながら考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性について興味や関心を高めるとともに、理解させる内容である。伝統的な生活と現在の生活を比較させることや視聴覚資料などを用いて世界各地の人々の生活の様子が生き生きと伝わるような授業を展開していく。
世界の諸地域	○領域全体で市の正答率と比べ4.4ポイント、県の正答率と比べ7.6ポイント上回った。特に「偏西風がヨーロッパ州の気候にもたらす影響について理解している」は20.8ポイント県の正答率を上回った。 ●「ヨーロッパ州の国々の名称と位置を理解している」は1.1ポイント県の正答率を下回った。	世界の諸地域では、地球上の六つの州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に「主題」を設け追究し、それぞれの州の地域的特色を理解させる内容である。「主題」を追究するにあたっては、教科書や地図帳の地図やグラフ、写真などを活用し、各州の様子を比較させる授業を展開していく。
古代までの日本	○領域全体で市の正答率と比べ3.7ポイント、県の正答率と比べ7.1ポイント上回った。特に「聖徳太子について」は13ポイント、「平安京について」は22.1ポイント、「紫式部について」は16.4ポイント上回った。「聖徳太子のめざした政治」や「十七条憲法について」は若干だが県の正答率を上回った。 ●「平安京の位置」は5.4ポイント下回った。	古代までの日本では、人類誕生と古代文明、宗教の誕生と日本の原始時代から古代国家の歩みを東アジア世界と関連づけながら理解させる内容である。小学校で学習した社会科の知識を時代ごと地域ごとに関連づけ、視聴覚資料などを用いて理解しやすい授業を展開していく。
中世の日本	○領域全体で市の正答率と比べ7.9ポイント、県の正答率と比べ11.5ポイント上回った。特に「承久の乱と鎌倉幕府の仕組みについて」は県の正答率と比べ15.8、前年度と比較して29.8ポイント上回った。「年代の表し方について」は県の正答率と比べ25.5ポイント、昨年度と比較して31.2ポイントも上回った。 ●「中世の経済活動については」10.8ポイント県を下回った。	中世の日本では、大きく分け鎌倉時代と室町時代とに分けられる。貴族社会からなぜ武士が成長し権力を握ったのか、また鎌倉時代と室町時代の政治を比較させながら理解しやすい授業を展開していく。また元寇や朝鮮との貿易、琉球やアイヌ民族の交易など地図帳などを利用し、アジアと日本との関係を地理的にも理解しやすい授業を展開していく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	57.4	54.0	53.3
	身の回りの物質	59.6	52.9	50.0
	植物の生活と種類	70.4	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	60.1	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	53.4	48.2	46.7
	観察・実験の技能	66.9	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	64.8	61.4	59.2



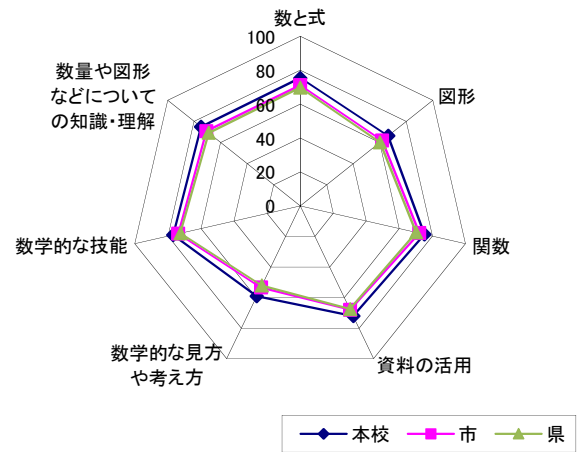
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○市平均を3.4ポイント、県平均を4.1ポイント上回っている。特に「力と圧力」の問題では78.2%と高い正解率を示しており、力とばねの伸びの関係や力を受ける面積と圧力の関係がしっかり身についている。 ●領域別に見ると57.4%で最も低い正答率である。観点別でも「科学的な思考・表現」は最も低い53.4%であった。	物理を身近なものとしてとらえていないが、実験は意欲的に取り組んでいる。光や音など、そのままでは目に見えない事象を様々な実験を通して体験させていく。また計算に苦手意識を持っている生徒がいるので、ワークやプリント学習で繰り返し学習を行う。
身の回りの物質	○市平均を6.7ポイント、県平均を9.6ポイント上回っている。水溶液の質量パーセント濃度を求める問題では県より17.1%も正答率が高く、状態変化の問題では、11.9%上回っている。 ●水溶液の質量パーセント濃度を2分の1にする方法を推測する問題では、県を12.7%上回っているものの、37.7%と正答率が低い。	ガスバーナーなどを使う化学実験は、特に積極的に取り組んでいるので定着度も高い。密度の大きさから、水に浮き沈みすることも理解している。しかし、応用力が不足しているため、練習問題を数多く解いたり、教え合い学習をしたりして様々な問題への取り組みを実施していきたい。
植物の生活と種類	○市平均を6.3ポイント、県平均を9.3ポイント上回っている。特に「植物の花のつくり」では県より18.2%高い。裸子植物の特徴や蒸散量を求める問題でも県の平均を大きく上回っており、学習内容が定着している。 ●顕微鏡の正しい操作手順を答える問題で、県平均より0.4ポイントしか上回っておらず、定着が不十分で	他の領域と比べると生徒の興味・関心も高い分野で、正答率も高く、学習内容が定着している。顕微鏡の操作手順の理解を深めるために、今後使用する機会に復習する時間を設けていきたい。
大地の成り立ちと変化	○市平均を0.5ポイント、県平均を1.0ポイント上回っている。深成岩のつくりとでき方では県より5.5%上回った。地震の伝わり方に関する記述問題でも、県より4.4%高い。 ●「火山と地震」の正答率が他と比べて低い。特に、地震の揺れの種類や、火山のでき方と形の関係など、知識・理解に関する問題の正答率が低い傾向に	火山や地震は生徒にとっても関心がある学習内容ではあるが、実物を見せられないものや再現できないものも多い。DVDなどの視聴覚教材を組み合わせることで、より関心を高め、しっかりと学力を定着させたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	75.5	71.2	69.8
	図形	66.3	61.9	60.2
	関数	75.2	72.1	70.1
	資料の活用	72.1	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	59.1	53.4	52.1
	数学的な技能	76.9	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	74.9	70.8	69.1



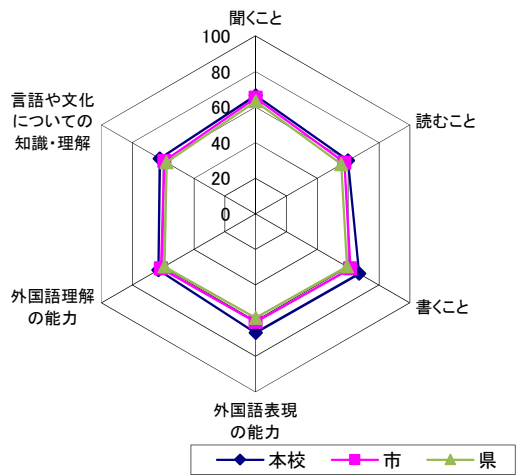
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均と比べると、4. 3ポイント高く、県の平均と比べると5. 7ポイント高い。中でも、本校の生徒は、1次方程式を特能力が高い傾向にある。 ●比例式の計算については、数と式の分野で一番正答率が低い。	・授業中に確認テストを行ったり、復習問題を宿題にだしたりなど、繰り返し計算練習する場面を多く取り入れ、計算力を高めていきたい。 ・ケアレスミスもみられるので、制限時間を設定し、その時間中で計算問題を解く練習も重ねていきたい。
図形	○市の平均と比べると、4. 4ポイント高く、県の平均と比べると6. 1ポイント高い。中でも、作図については高い正答率を示している。 ●空間図形については、この分野で一番正答率が低い値を示している。	・授業の最初に、確認テストを行い用語の定着を図りたい。 ・空間図形の表面積や体積を求める公式を使って解く問題を、数多く解かせることで、適切な公式を使い問題を解く力をつけさせたい。
関数	○市の平均と比べると、3. 1ポイント高く、県の平均と比べると5. 1ポイント高い。中でも、反比例についての問題では高い正答率を示している。 ●比例の式から比例のグラフをかく問題では、県の正答率を5ポイント下回っている。	・式から比例のグラフ・反比例のグラフをかく問題も数多く解かせ、グラフに対する苦手意識を取り除いていきたい。 ・活用に発展させるため、簡単な関数の問題を解くことから始め、「ともなって変わる2つの量」の関係を理解させ、表・式・グラフの関連性も身に付けさせたい。
資料の活用	○市の平均と比べると、4. 5ポイント高く、県の平均と比べると4. 5ポイント高い。中でも、階級に関する問題では高い正答率を示している。 ●度数について問われる問題では、この分野で一番正答率が低い。	・課題学習の時間に、資料の整理についての課題を設定し、生徒が興味を持ちそうな内容を扱い、それを使って資料を整理し、度数分布表を作成したり、そこからヒストグラムをかいて、資料の平均値や中央値や最頻値を求めることを経験させたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.5	65.2	63.2
	読むこと	59.9	57.6	55.6
	書くこと	67.1	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	66.8	60.7	58.4
	外国語理解の能力	63.1	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	62.2	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○県平均より3ポイント上回った。対話文を聞いて、曜日や時刻を聞き取ったり、適切に応答することができる正答率は64～69%である。 ●県平均より6ポイント上回ったが、昨年度本校比では17.2ポイント下回った応答文があった。 (Then, whose book is it?)	本校では、予習なしで授業に臨ませるとともに、聞くことに重点を置いた授業を展開している。Small talkやALTの活動の説明にもおおむね対応することができているので、今後も英語を数多く聞かせる授業を工夫していきたい。
読むこと	○県平均より2ポイント上回った。市平均とはほぼ同じである。 ●「まとまりのある文を読んで、下線部が指す内容を読み取ることができる」、「対話文の中で疑問視whatを用いた現在進行形の文を理解している」「主語が複数の時の一般動詞の疑問文」など50%に届かない項目があった。	教科書のREADや、補助資料を活用して、まとまりのある文章を読ませる工夫をしたい。新出単語は訳の先渡しをして、単語ではなく、文としてとらえる練習を積み重ねていきたい。また日本語では省略されがちな代名詞を意識させ、主語や目的語をはっきり読み取る力をつけさせていきたい。
書くこと	○「テーマに基づく英作文を書くことができる」では第1文の名前、第2文の得意なことまたは好きなことは87%以上の生徒が書けた。 ●つながりのある文は69%と少し落ち込んでしまう。 ●相手の住んでいるところや好きな動物をたずねる文は35%の生徒が書けた。条件英作文は苦手のようなのである。	語順整序問題を苦手としているので、動詞に注意して文を書く練習を工夫する。さらに条件作文では例文を豊富に提示し、間違いを恐れずに書いてみる態度を育てていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習について

○「家で復習をしている」「まちがえた問題について勉強をしている」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」について、肯定的回答が、県平均・市平均より多く、学習環境は良いと考えられる。さらに計画性が身に付けば、学習習慣が確立されるので、学級活動や各教科で学習計画について、言及していきたい。

○「グループなどの話し合いに積極的に取り組んでいる」「クラスは発言しやすいほうだ。」「自分はクラスの役に立っている」の項目で肯定的回答が県・市平均より上回った。学校、学級での学習環境もほぼ良好である。

●「友だちの前で自分の意見を発表することは得意だ」という項目については否定的回答が多い。本校の重点課題である「基礎基本の定着と学習意欲を育てる言語活動の工夫」について、学習形態や発問、題材を工夫し、教師同士が互いの授業参観をしながら、研究を進めている。生徒の学習意欲は上記のように多くあるので、言語活動の工夫についてさらに研究していきたい。

○各教科ともほぼ好きであり、将来の必要性も理解している生徒が約70%である。今後も将来を見据えて、生徒が生き生きと取り組む授業を展開していきたい。

●「自分の考えを書くと、考えの理由がわかるように気をつけて書く」「普段の生活の中で活用できないか考える」「インターネットなどを使って調べる」の項目は、市平均・県平均より下回った。より発展的な指導が必要であり、図書室やコンピュータ室の活用、視聴覚機器の活用、身近な事柄との結びつきなど、紹介していきたい。

生活について

○食事や睡眠などについては、肯定的回答が多い。また自分に自信を持って生活している様子もうかがえる。今後も伸ばしていきたい。

●家族とは「きまりや約束を守っている」「ほめてくれる」「家族の大切な一員である」などでどちらともいえないという回答が増える傾向にあった。思春期の照れや反抗期などが、理由として考えられる。学校からの情報発信を多くして、家庭での話題作り乃一助にしたい。